

全国市町村長サミット2025 in秋田

＜第二分科会：地域運営組織＞

～ 人口減に負けない！
「未来への希望」が持てる、
元気なまちづくりを目指して ～



令和7年10月27日（月）

岩手県 奥州市長 倉成 淳





奥州市は、平成18年2月に、

- ・水沢市（合併当時の人口：60,153人）
 - ・江刺市（同33,414人）
 - ・前沢町（同15,206人）
 - ・胆沢町（同17,565人）
 - ・衣川村（同5,113人）
- の2市2町1村が合併して誕生。

総面積は993.30km²（東京23区の1.5倍）

土地の利用状況は、林野が54.6%、農地は21.5%、
宅地は3.9%

主要産業は、農業、半導体関連産業、鋳物産業等



歴史公園えさし藤原の郷



岩谷堂筆筒



南部鉄器



田んぼアート



前沢牛



江刺りんご



MLBマンホール

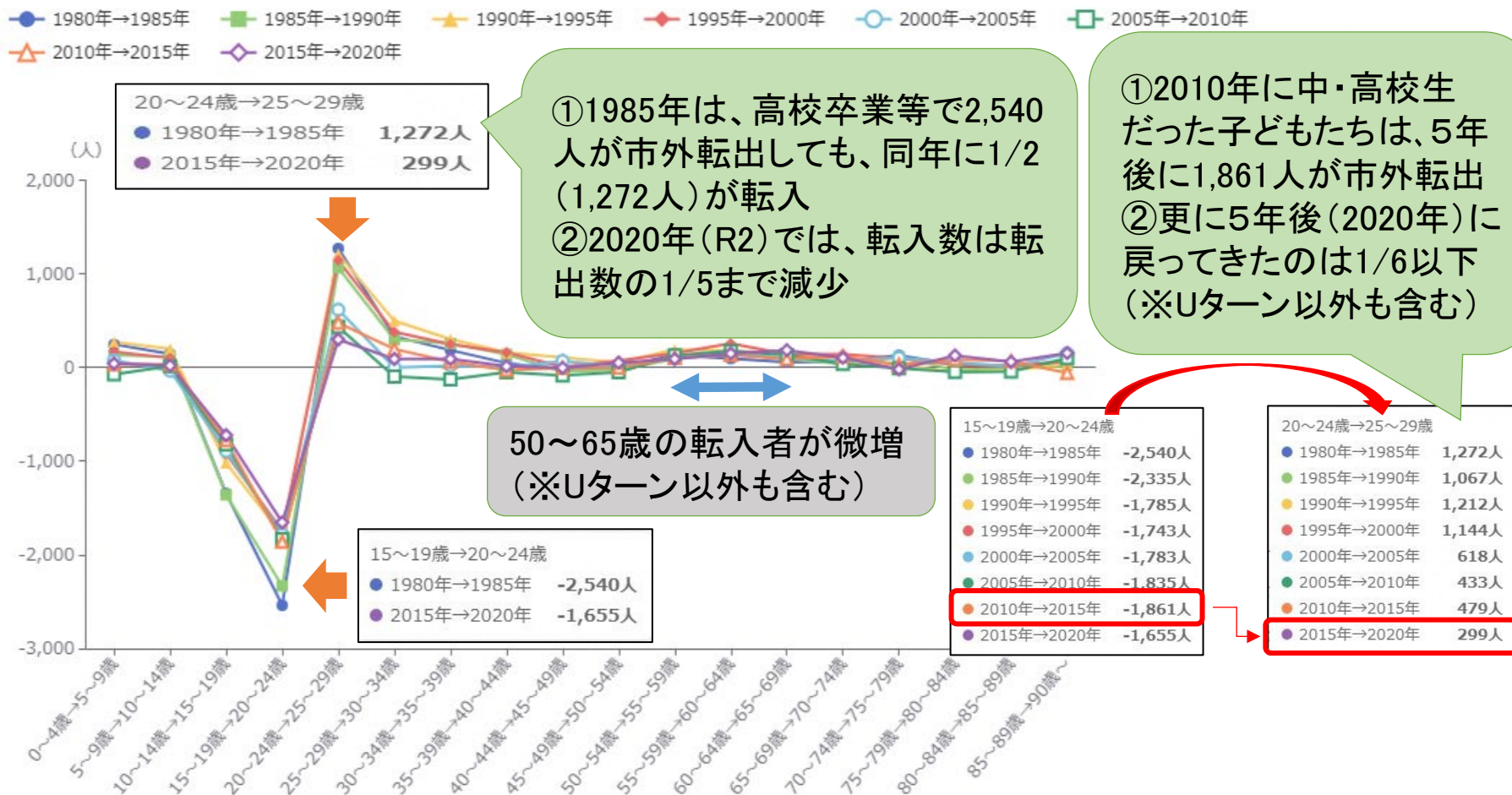


大谷翔平選手壁画、9/1オープン



奥州市の年齢階級別純移動数 時系列分析

国勢調査人口（5歳階級別）が、5年後にどのように増減しているかを表したグラフ



奥州市の社会増減は10代～30代の転出超過が影響

【出典】

総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきデジタル田園都市国家構想実現会議事務局作成

【1】「人口減少でも元気なまち」に必要な要素



《 国土交通省が主催する講演会での
衝撃的な内容 》

重要な要素は二つ

- ① **未来への希望**
- ② **地域の寛容性**

全国 5 万人の都道府県別意識調査

- ① 地元の住人
- ② 地元から首都圏に移住した人

「地域の希望」の全国順位

- ① 沖縄県が 1 位、福岡県が 2 位
- ② ワースト 5 に東北の 3 県

注) 岩手県では人口減少対策として、「アンコンシャスバイアスの排除」と明記



奥州市未来羅針盤図

市が目指すまちの開発デザイン

全市展開

1 地域医療奥州市モデルプロジェクト

地域全体をカバーするネットワーク型による地域医療体制の構築

2 未来型公共交通プロジェクト

利便性の高い持続可能な公共交通システムの構築

3 小さな拠点づくりプロジェクト

地域住民・民間組織・市の協働による持続可能な生活圏の維持

奥州湖周辺エリアプロジェクト

アウトドアフィールド・アクティビティの開拓と人材育成、民間企業との連携強化

小さな拠点づくり(衣川)プロジェクト

協働による持続可能な生活圏の維持(見守り電球を使った高齢者の見守り、民生委員活動にタブレット活用など)

水沢市街地エリアプロジェクト

メイプルリニューアル、水沢公園リニューアル、駅前周辺の賑わいの創出

江刺市街地エリアプロジェクト

誘致企業雇用者対策、官民連携による市有地有効活用

小さな拠点づくり(伊手)プロジェクト

協働による持続可能な生活圏の維持(旧伊手小学校を活用した拠点づくり)



前沢市街地エリアプロジェクト

駅周辺の生活環境の充実、デジタル技術を活用した利便性の高い公共交通システムの導入、未利用市有地等の利活用の検討

奥州市未来羅針盤図の8つのプロジェクト (令和5年~)

6

◆全市展開 ●個別PJ

◆ 地域医療奥州市モデルプロジェクト

・地域医療関連施設のそれぞれの強みを生かしつつ、機能分化・連携強化を図り、ネットワーク型による地域医療体制を構築

◆ 未来型公共交通プロジェクト

- ・DXの活用や共助による公共交通システムの構築
- ・市民・関係人口の双方にとって利便性が高い公共交通システムの構築

◆ 小さな拠点づくりプロジェクト・・・「未来への希望」+「寛容性」

・地域住民が、自治体や関係団体等と協力・役割分担をしながら、地域の資源を活用し、しごと・収入を確保する「小さな拠点」づくりの推進

● 市街地（水沢、江刺、前沢、水沢江刺）開発プロジェクト(4)

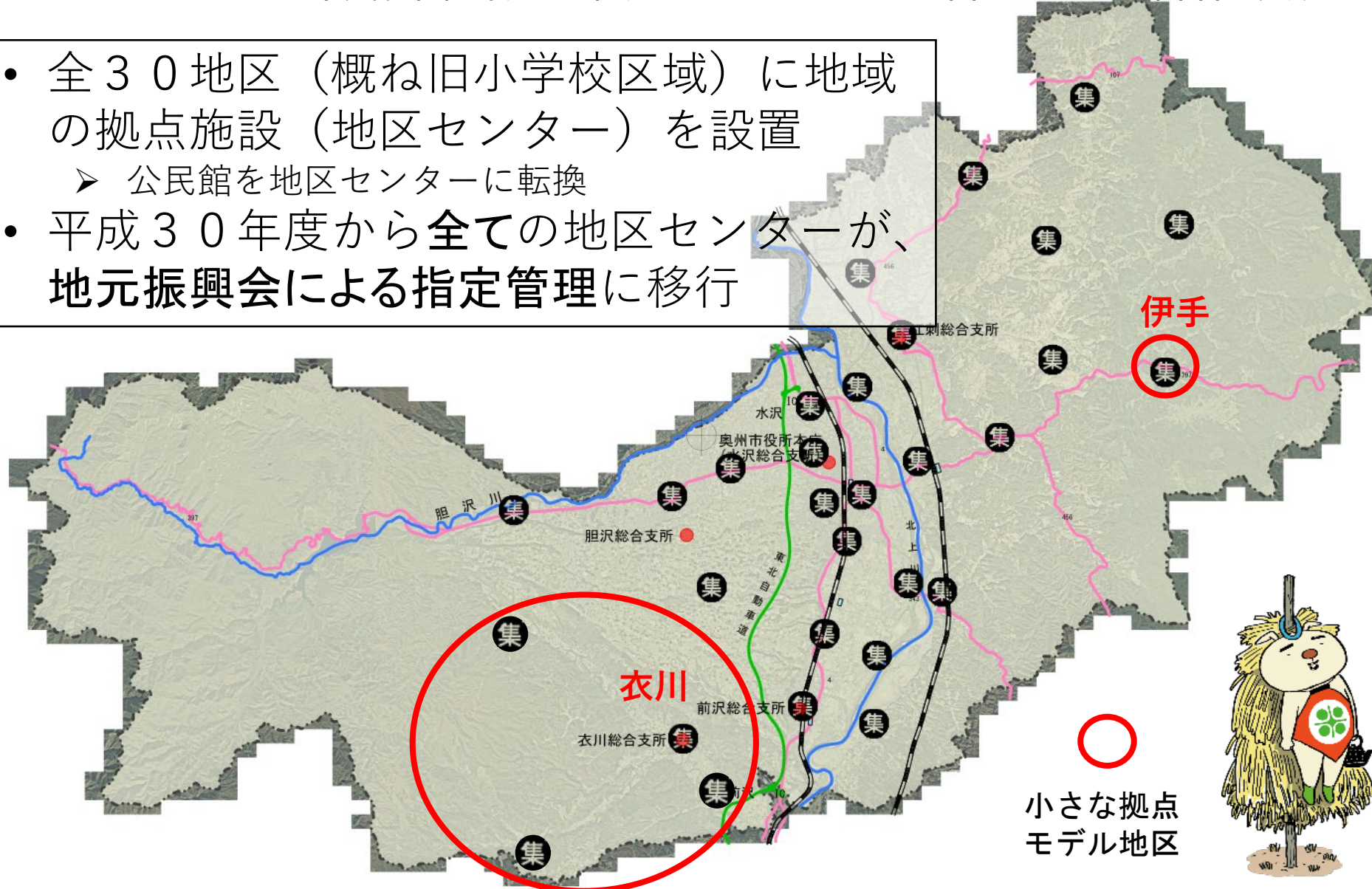
・若者がいつまでも住みたくなる、地域の特徴を生かした、官民連携によるコンパクトで魅力的なまちづくりの推進

● 奥州湖周辺開発プロジェクト・・・「未来への希望」+「寛容性」

・豊かな自然を生かしたアウトドアアクティビティの推進による、観光を含めた関係人口の拡大

地域課題の解決に向けて、市民ニーズに対応したきめ細かく質の高いサービスの提供、さまざまな場面への市民参画や協力を促進することにより、自立した地域自治を実現

- 全30地区（概ね旧小学校区域）に地域の拠点施設（地区センター）を設置
 - 公民館を地区センターに転換
- 平成30年度から**全ての地区センターが、地元振興会による指定管理に移行**



小さな拠点づくりプロジェクト

狙い

【小さな拠点】地域住民の合意形成（地域デザイン等）のもと、住民が主体となって日常生活に必要な機能・サービスを集約し、地域資源を活かした持続可能な生活圏を維持する

活動の
ステップ

①地域住民による
「地域デザイン」の策定

②住民主体の 地域
運営組織の形成

③生活サービスの
維持確保

④仕事・
収入の確保

モデル1 衣川地域生活圏

- ◆R4年度に衣川地域振興会連絡会を運営組織として「小さな拠点づくりモデル事業」のモデル地区指定
- ◆住民との話し合いにより、プロジェクトの「狙い」に即したモデル事業を実施

地域と市の協働でモデル事業

見守り電球を使った高齢者の見守り

モバイルクリニックによる遠隔診療

地域おこし協力隊による地域資源活用

高齢者デジタルサロンの活用によるスマホ活用の推進

民生委員活動にタブレットを活用

地域の企業団体との連携
(宿泊施設、スキー場等)

モデル2 江刺地域・伊手地区生活圏

- ◆地域住民によるワークショップを経て「基本構想」を策定
- ◆旧伊手小を複合施設に利活用・・・1階に伊手地区センターを移転 2階を地域運営組織が活用

旧伊手小学校を活用した複合施設を拠点に
地域資源を活かした生業の創出・地域交流

農福連携の推進・農作物の加工



キャンプや野外イベントの開催



体験プログラムの構築
グリーンツーリズム



安らぎの場
ブックカフェの開設



地域の企業団体との連携
(りんご園、食堂、産直施設等)

地域資源活用

旧伊手小学校利活用「基本構想」



サマーキャンプ 2024～



2024年度から、旧校舎で小学生対象のサマーキャンプを毎年開催。体育館や校庭での遊び、地域の高齢者を先生に竹灯籠づくり、地域の特産品開発と絡めたメンマづくりなど内容は盛りだくさん。2年目からは中高生のボランティアを含めたスタッフが一緒に運営するようになりました。

伊手婦人咖喱祭 2024.11



商店街を会場に、賑わいの復活とフードロス削減、鳥獣への餌化防止を目的とした『伊手婦人咖喱祭』も開催。カレー等のふるまいやキッチンカー、出店などが並び、幅広い年齢層の方々約300人が訪れる活気あふれるイベントとなりました。

伊手農村農業活性化協議会作成「農村RMO活動報告書」より

令和7年6月12日発行
第12号

明るい未来を実感できる“日出る伊手”をつくる

伊手
サンライズ新聞

伊手で取り組む事業についてお知らせする夏版です。毎月一号を目安に発行していきます。

地域と未来を語る！
市長との熱いディスカッション

5月8日の午後、食の未来を語る伊手地区と約1時間30分にあわせた、地域活性化に大いに貢献していく伊手地区の未来が語られた。

伊手が関係人口の先進地に！
新たな人の流れに期待！

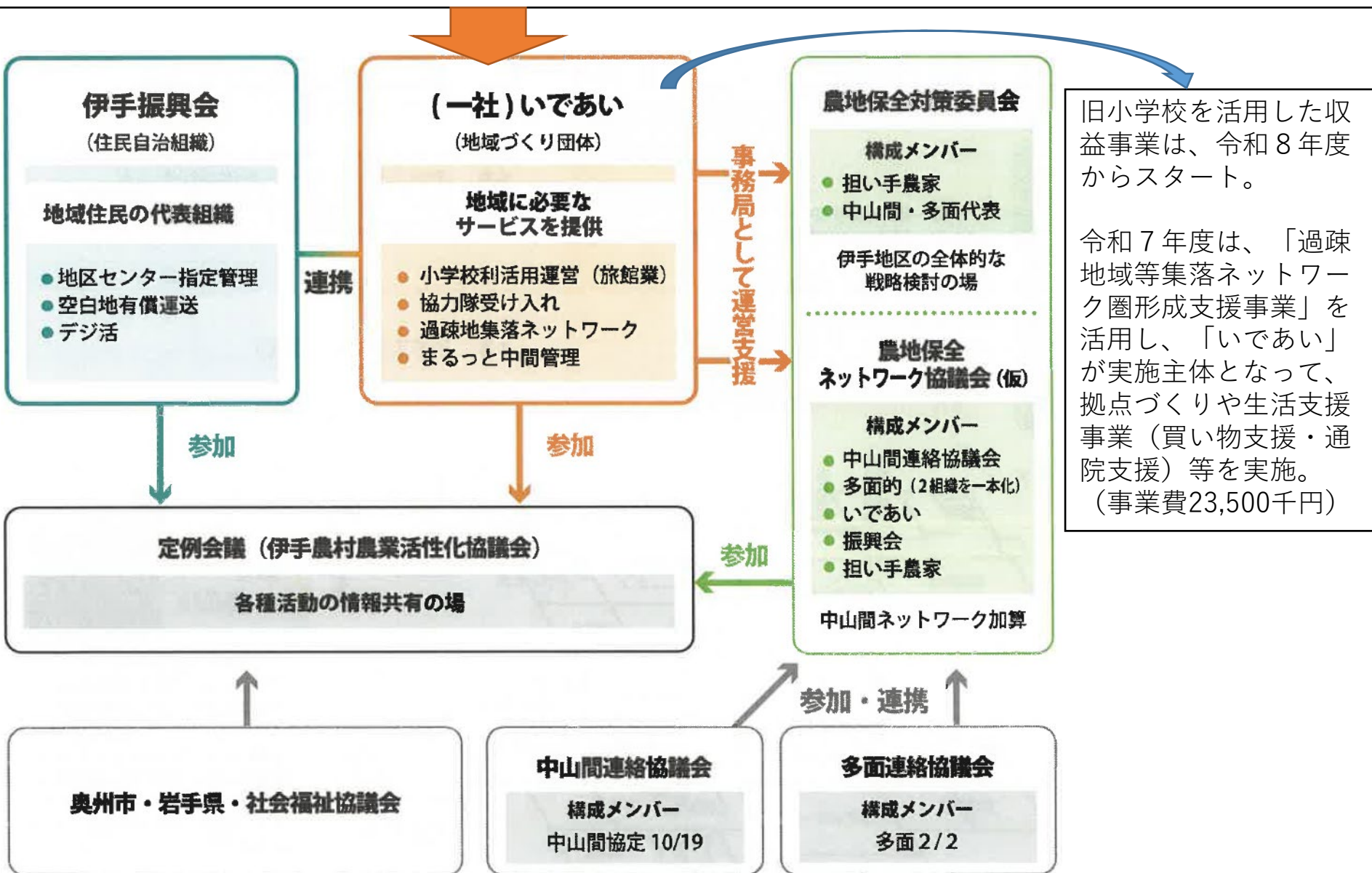
今日の伊手地区は、特に住民に注目されている。この地域は、伊手地区の未来を語る伊手地区と約1時間30分にあわせた、地域活性化に大いに貢献していく伊手地区の未来が語られた。

放置竹林の
利活用策
メンマを試作

- 市では、「集落生活圏」を維持し、将来にわたって地域住民が暮らし続けることができるよう、地域にあった生活サービス・交通ネットワークの確保等に取り組む地区を、**小さな拠点づくりのモデル地区として指定**。
- 伊手地区は令和6年3月に指定

自律型地域運営組織への移行

廃校となった小学校を活用→コミュニティビジネスも含めた地域運営組織への移行



旧小学校を活用した収益事業は、令和8年度からスタート。

令和7年度は、「過疎地域等集落ネットワーク圏形成支援事業」を活用し、「いであい」が実施主体となって、拠点づくりや生活支援事業（買い物支援・通院支援）等を実施。
(事業費23,500千円)

まちづくりに関する未来羅針盤プロジェクト（抜粋）

12

小さな拠点づくりプロジェクト（江刺地域：伊手地区）

「日出る伊手」づくりプロジェクト



ユニークなサービス

- ◆いでおでかけサロン
- ◆いで通院支援

目的と整備内容

- 1) 関係人口増やす
 - ・ 宿泊及びレンタルオフィススペース
- 2) 地域の生業づくり
 - ・ 地域加工場整備（りんご、漬物、メンマ等の特産品）
- 3) その他
 - ・ 地区センター、子育て支援、農福連携
 - ・ 売上高：5年で35百万円目標
 - ・ 一般社団法人として運営
 - ・ 国の交付金申請
 - 2025年度1.5億円交付決定！

次に、奥州湖周辺開発プロジェクト

「未来への希望」+「寛容性」

包括連携協定先の国土交通省・日本カヌー連盟・
モンベル社と連携して**カヌーワールドカップ**の招致

アクティビティの場所（奥州湖付近の地図）



国の交付金 2025年度1.7億円
継続財源 水源地域振興基金

- 1) 奥州湖交流館整備事業の継続
→ **日本代表選手の強化合宿所**
【日本No.1のカヌー競技場】
- 2) 国交省のハイブリッドダム構想
→ **自然越流水利用の発電**による
収益の活用【事業の原資】
- 3) パドルスポーツの普及やBBQ
サイト・マルシェの創業
【生業づくり】

イメージ図



胆沢ダムにおける融雪時の自然越流水有効利用の試行

14



電源開発(株)

・発電事業者



岩手県

岩手県企業局

・発電事業者



奥州金ヶ崎
行政事務組合

・水道事業者



胆沢平野
土地改良区

・かんがい事業者



胆沢ダム



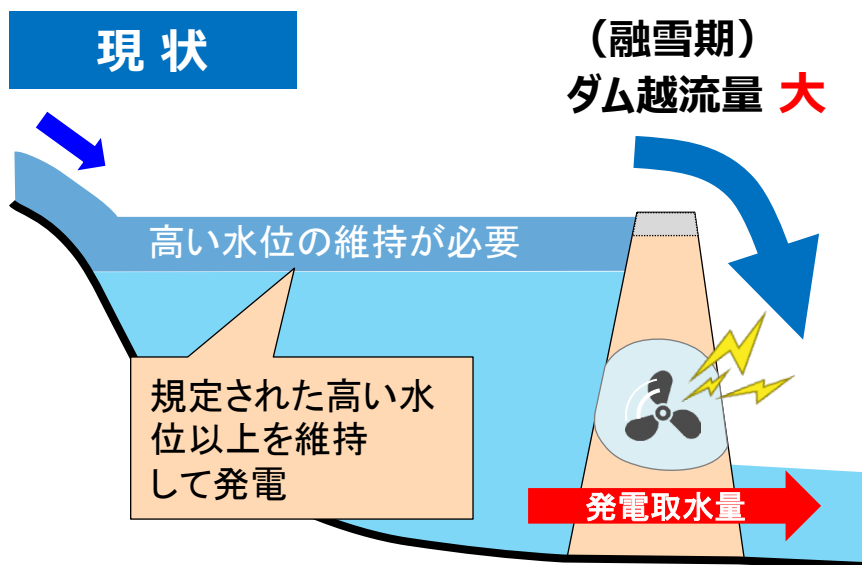
国土交通省

北上川ダム統合管理事務所
胆沢ダム管理支所

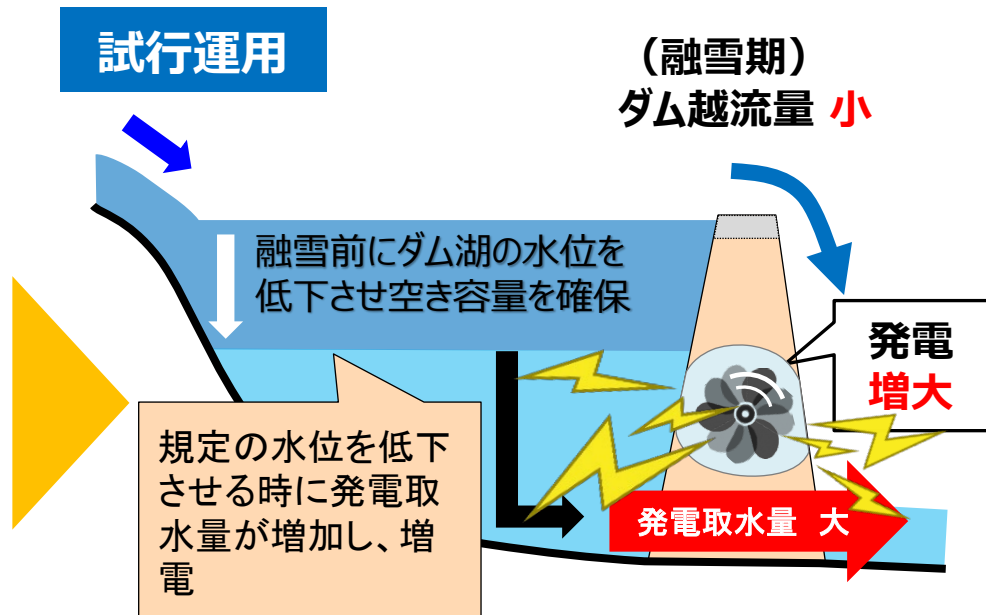
・ダム管理者

奥州市・地元自治体
水源地域振興

現状



試行運用



地域格差と地方創生の課題

□都市と地方の格差

- ・都市と地方の経済格差を停滞の言い訳にしないことが大切です。
- ・地方の元気の源は「未来への希望＋寛容性」

□地方創生の重要なポイント

- ・地方創生は持続可能な社会づくりを目指す
- 当事者意識が「地域の寛容性」を生む。
- 行政のタイムリーな伴走支援が重要

□地域資源の活用

- ・ヒト・モノ・カネ・情報の有効活用

ヒト→謙虚で大胆な発想をする若い人材がいる。
粘り強い人間性も魅力（大谷翔平効果？）

市民に分かりやすく伝える！
 このミッションに対し、若手職員チームが出した答えは？



全国シティプロモーションアワード2024
 金賞受賞!!

「三年味噌に余念なし」

長期醸造味噌は多様な機能を持った微生物
(カビ・酵母・乳酸菌) の活躍の結晶



ご清聴ありがとうございました